

# 石倉西遺跡（いしくらにしいせき）

所在地：筑西市松原字石倉 2091-1 ほか

調査期間：令和5年4月1日～8月31日

調査面積：2,785㎡

委託者：筑西土木事務所

調査原因：主要地方道筑西つくばバイパス改築事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（筑西事務所）

TEL：029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



Twitter

## 遺跡の概要

石倉西遺跡は、筑西市の東部に位置し、大川右岸の標高約28mの微高地に立地しています。周辺の大川や観音川との比高は数mです。令和4年度から当財団が調査を行っており、奈良・平安時代を中心とする集落であることが明らかになりました。

今年度も、前年度同様に奈良・平安時代の<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡や<sup>ほったてばしらたもの</sup>掘立柱建物跡を調査しています。また、当遺跡周辺には、大川や観音川に沿って古墳時代の古墳や奈良・平安時代の集落が数多く存在しています。

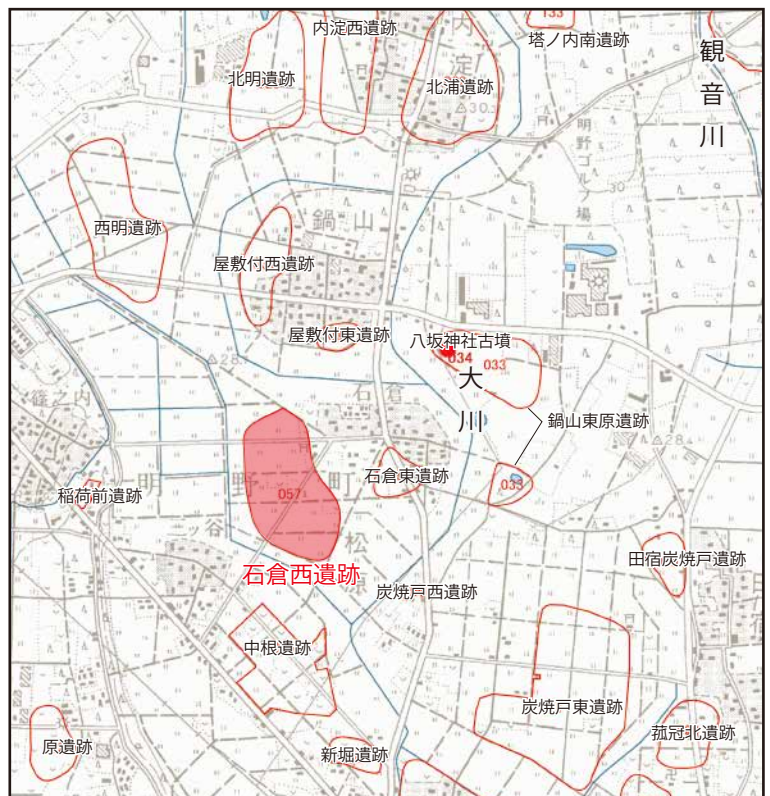
## 調査の成果

今回の調査では、奈良・平安時代を中心とする集落跡を確認しました。

奈良時代の竪穴建物跡は18棟で、一辺の長さが6～7mの比較的大きなものと、3～4mの小さなものに分かれます。一辺の長さが7mほどの第4号竪穴建物跡からは、<sup>とうす</sup>刀子などの鉄製品が出土しました。また、掘立柱建物跡を12棟確認しました。

平安時代の竪穴建物跡は34棟で、いずれも一辺2～4mほどで、長方形のものもあります。掘立柱建物跡は確認できませんでした。第51号竪穴建物跡からは「家」、第53号竪穴建物跡からは「×」など、文字や記号が記された<sup>ぼくしよ</sup>墨書土器が出土しました。

当遺跡は、大川や観音川などの河川とかかわりながら、奈良時代から平安時代まで連綿と集落が営まれてきたことがうかがえます。



石倉西遺跡と周辺遺跡（茨城県遺跡地図に加筆）



令和5年度の調査区全景（北西から撮影）

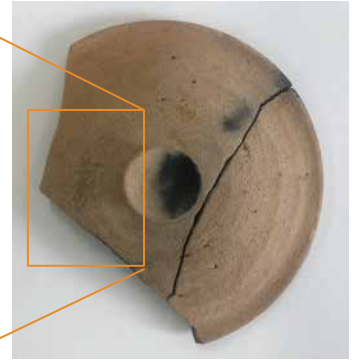




特徴的な遺構・遺物



一辺約4mの奈良時代の竪穴建物跡



平安時代の墨書土器



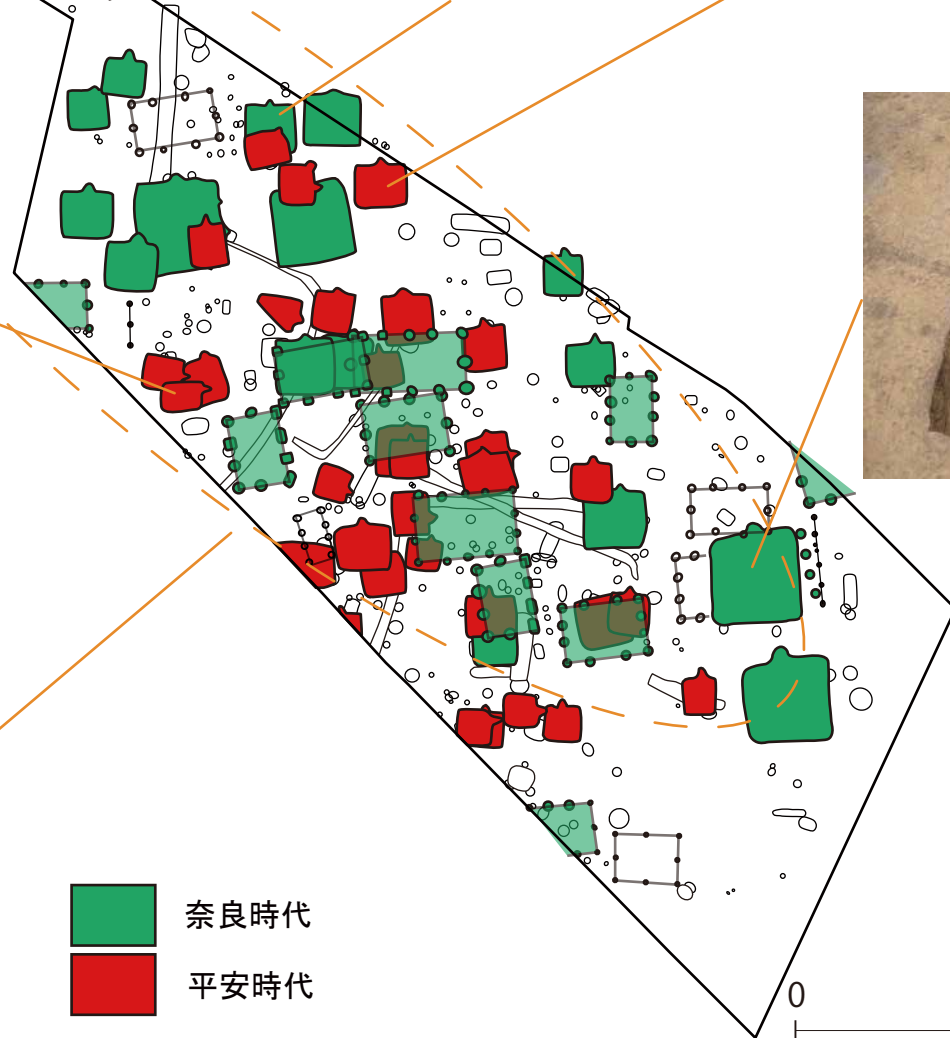
平安時代の竪穴建物跡



一辺約7mの奈良時代の竪穴建物跡



重複する奈良時代の掘立柱建物跡



- 奈良時代
- 平安時代

0 (1:600) 50m